

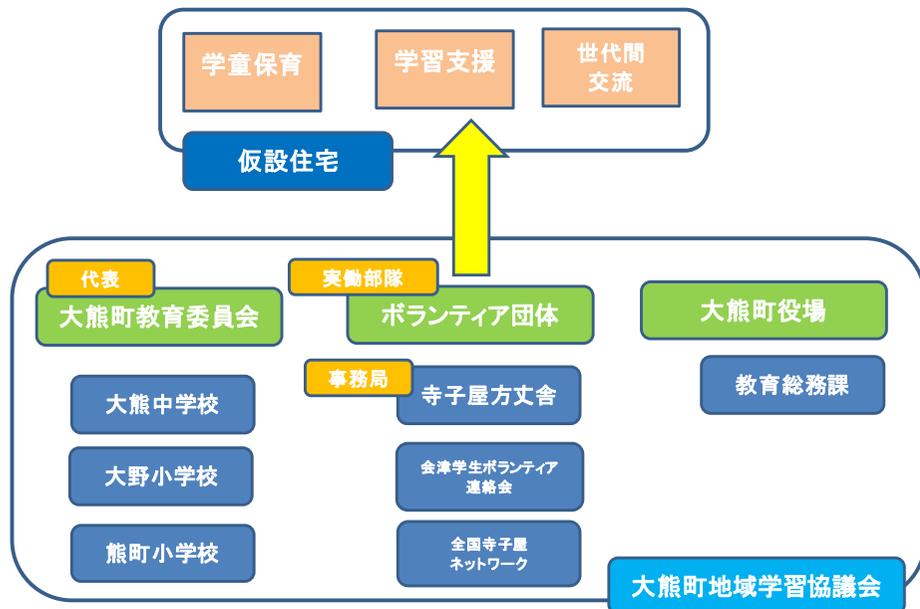
～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～

受託団体：大熊町地域学習応援協議会

取組の基本理念

震災・原発事故後、激変した環境で日々を過ごす大熊町の子どもたちの健やかな成長のため、公教育と民間支援団体が連携を図りながら、子ども支援の質を向上させることを目標にしています。

地域課題に応じた学習・交流会活動



事業概要

- 福島第一原発事故により会津地域に避難してきた大熊の子どもたちの学習および遊びを通じた人間関係の築き直しと子どもを通じたコミュニティの再構築を図る。
- 地域の復興を支援するにあたり、被災地を抱える自治体との連携を図りながら、以下の内容を進めていく。

取組の概要

○学童保育活動

場 所：寺子屋方丈舎内
内 容：遊びの機会が減少している子どもたちに「安心して安全に・自由に遊べる」機会を提供。実施回数 182回 延べ910名の子どもが参加。



○仮設住宅における学習支援

場 所：大熊町仮設住宅(若松二中／東部公園／長原仮設)
内 容：小学生・中学生を対象とした学習支援活動を実施。実施回数 91回 延べ 730名の子どもが参加。



○避難者同士の世代間交流

場 所：奥会津巡りツアー(田子倉湖⇒昭和村⇒大内宿)
内 容：長期避難に伴う孤独・孤立を防ぐため、世代間交流会を実施。からむし織りの体験を3世代で実施32名(大人 26名 子ども 6名)が参加。

